

社会福祉法人 二葉保育園
児童養護施設 二葉学園

二葉だより

発信元

東京都調布市上石原2-17-7

児童養護施設 二葉学園

TEL 042-482-2578

FAX 042-480-5200

「新型コロナウイルス感染症拡大に思う」

今、新型コロナウイルス感染症は子どもたちの生活に様々な影響を与えています。学園には、基礎疾患を持ちその治療中の子どもたちや職員もおります。特にその子どもたちへの罹患を食い止め、重症化させないことを最優先課題と位置づけ、今も取り組んでいます。

子どもたちやホーム職員は本当に頑張っています。頭が下がる思いです。我慢することや辛抱することが苦手な子どもも多くいると感じていたのも、様々な制限がかかる生活はストレスが増すこととなり、ストレスに耐える力に乏しい子は、より生活しづらい、集団のなかで困難をより感じてしまう、その結果トラブル（生活上の子ども同士・子どもと職員の衝突）が増大するのではないかと危惧してまいりました。しかし、これまでは全体的に、想像していたよりも落ち着いた生活しているなと感じてい

ます。

子どもたちにはやはり力（適応能力）があるということです。一方で、「かかわらないことが安全や命を守ることになる」「かかわらないことで安全、命、生活を守る」、ということとは私たちに大きな戸惑いと葛藤を与えています。葛藤を抱えるのは、今学園で生活している子どもたちの中には「かかわりが不適切（かかわらない）なこと」、が原因で入所に至ったケースが多く存在をしているからです。大人（社会や政治）の不作為の結果、学校に行けなくなったり（学ぶこと、友だちと遊ぶことができなくなったり）外で元気に遊ぶこと（自由に行動すること）ができなくなったりして、不利益を被ってきた子もいるからです。

だから、子どもたちには「大人の都合でみんな決められて本当に勝手だ」「都合のいい時だけ、『かかわらないで守る』なんて言うな」という感情がうずまいていくかもしれない。ま

た、そもそも自分の存在や環境に不安定さ（その原因が学園の職員のかかわりが足りないとかまづいとかいうことではなくて）を抱えている子にとっては、今の自分たちが置かれている状況に漠然と不安を抱えることは想像に難くありません。さらさくれている情報には安心を与えてくれる確実なものがない、実感できないとなると不安を抱くことは不思議ではありません。

職員も同様です。かかわり合うことで成り立たせていたものができない、かかわり合うことをしない選択をするという現実を突きつけられています。「当たり前前のことができない、許されない」ことは、何よりも学園が大切にしてきたことをしない、やらないということに他なりません。私たちは、具体的なコミュニケーションをもつてかわり合いを成立させ、それを強みとしてきました。職員同士や関係機関との協働を強みとしてきたのです。相当なピンチなのですが、発想を変えてチャンスに変える努力を今しているところ

です。

これから政治は、「命（健康）と経済（生活）」を両立させる（言い換えるとこれまでは命優先だったがこれからは経済優先に舵を切る）方向に進むと感じています。私はどちらも大事だと思っています。なぜなら、それらが生活の多くを規定しているからです。子どもたちに聞いたら「どっちでもでしょ」と答えると思っています。

私はこの間の新型コロナウイルス感染症の様々な対応の中で、「私たち（学園）」はひとつの家族なんだな」と思うに至りました。私たちがこの子たちの「親代わり」とか「自分の子どもだったら」とかとはちよっと違う感覚で「家族」を実感しています。ホームで生活する子どもや職員を守るためにはどうしたらいいか、その一点に集中しました。それを子どもたちや職員と共有したい、実感してもらうにはどうしたらいいかを考える毎日です。

日頃支援していただいている方々や卒園生から、昨春秋の台風の影響の時と同様に、心配や励ましの連絡をもらっています。本当にありがたいです。この場を借りて御礼申し上げます。

施設長 小倉 要



令和二年度重点課題

今年度の二葉学園の重点課題は『個性(強み)を発揮しよう!』になりました。二葉保育園の創立以来からの精神としても、「子どもの個性を大切にし、子どもたちがかけがえのない人生を自らの力で獲得できるような養育を目指します。」と掲げられています。子ども達がどんな自分になりたいのかを描けるように、自分自身を愛することができるようになる、日々の生活の中で互いを認め、共に高めあっている一年間にしていきたいです。

児童指導員 山田 晃平

人材対策委員会

近年、児童養護施設への就職希望者が減ってきている中、二葉学園では今年度から「人材対策プロジェクト」を立ち上げました。二葉学園で働きたいと思ってくれる人材の「確保」、就職後の「育成」、長く働き続けるための「定着」の三班に分かれて学園全体で取り組んでいます。今の学生や就職希望者が何を必要とし、何を求めているのかをリサーチし、snsの活用や子どもとの関わりを実感でき

るインターンシップ、体験会などの検討を進めていく予定です。

児童養護施設の魅力、二葉学園の魅力をより多くの人に伝え、子どもたちに今まで以上の支援ができるように、職員全員で取り組んでいきたいと思っています。

児童指導員 池田 麻由

地域支援

二葉学園では地域の子育て支援として、近隣の市からのシヨートステイの受け入れや保育付きのヨガ教室等を開催しています。ただヨガ教室は新型コロナウイルスの影響により、昨年度末から開催出来ずにいます。今後再開した時には自粛生活を過ごしてきたお母様方を少しでも癒せる時間を作っていきたいです。

今回の状況を経験し、二葉学園の地域支援には何が求められているのかを改めて考えるきっかけとなりました。今後も地域に貢献出来るよう努めてまいりますので、よろしくお願い致します。

地域支援担当 日下 部樹

里親支援

地域で生活されている里親家庭への支援として、調布市、府中市、稲城市、多摩市そして今年度から狛江市も加わった五市の地域を担当しています。

半年に一回は家庭訪問をさせていただき、成長を共に感じたり、心理的ケアの必要性を共有したり、入学や進学に向けて必要なことは何かを考えたりにしています。心がけていることは、家庭内の空間で子どもと向き合うことで、支援者としての里親さんが孤立してしまわないようにしたいということです。

地域分散化、家庭的養護をすすめてきた二葉学園にとつては、里親家庭における養育は多くの学びにもなっています。個々の里親家庭の良さを生かしつつ、「施設ではこんなふうにかかわっています」ということもお伝えしたりして、お互いに学びを深めながら、チームとなつて子どもたちへの支援をしたいと感じています。

里親支援専門相談員

中谷 美子

家庭支援

これまで一緒だった家族からも、住み慣れた家や地域からも引き離され、誰も・何もしらない二葉学園での生活をスタートさせなくてはいい子子どもたち。どちらかというと後ろ向きからのスタートですが、学園に慣れてくると、これまでの生活の振り返りとこの先について考え始める子どもがたくさんいます。「なんで自分だけ施設に入らなければいけなかったのか」「どうしたら家に帰れるのか」「などなど。そんな子どもたちの想いを少しでも整理できるように、面会や交流を重ねる中でご家族にも一緒に考え、向き合ってもらっています。一緒に生活するだけではなく、交流しながらそれぞれの生活を大切にしようという目標掲げる家族もいます。二葉学園で生活している間に、子ども・家族お互いの想いの重なりを見つけ、それぞれの家族の形を創っていけるお手伝いができればと思っています。

家庭支援専門相談員

田島 亜希子



入所児童の心理ケア

二葉学園には心理職が5人います。心理室で面接をしたり、発達成長を助ける療育的な活動したり、ホームで子供と過ごしたりしています。

この二月以降、世の中は新型コロナウイルスによる、「経験したことない事態」に、ストレスを感じてきたのではないのでしょうか？元々二葉学園の子どもも、入所という「経験したことない事態」にさらされ、その前にも様々なストレスを経験をしてきています。いくつものストレスの波をかぶった後の反応には、多様なものがあります。私たちは子どもたちの小さなサインを見逃さず、ケアに取り組んでいきたいと思っています。

心理療法担当職員

江川 亜希子

ボランティア

学園では、子ども達への支援の一環として、ボランティア活動の受け入れを行なっており、沢山の方々に関わって頂いています。具体的には、

子どもに個別に関わっていただく個別ボランティアをお願いしています。子どもと個別に遊んだり、勉強を教えていたり、子どもとも含めてボランティアの方と相談をして進め方を決めています。

昨年度は、個別ボランティア以外にもワークショップ型のプログラムもたくさん行うことができました。普段体験できないことを体験することができて子どもたちはとても喜んでいました。キラキラした顔で活動に参加している子どもたちの姿が印象に残っています。

ボランティアの方に関わっていただくことで子どもたちの生活が豊かになっていることを感じています。

いつも関わってくださっている皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

活動にご興味があれば、ぜひご連絡いただければ幸いです。

ボランティア担当

朝倉 郁美



いつもありがとうございます！

令和元年度 寄付金報告

児童養護施設 二葉学園にいただきましたご寄付についてご報告いたします。

昨年度いただきました総額「1,527,563円」の寄付金を下記のとおり使用させていただく予定です。皆様の深いご理解とご協力に感謝し、厚く御礼申し上げます。

・誕生日プレゼント、クリスマスプレゼントの費用	540,000円
・高校生の塾費用	480,000円
・今年度の卒園児の自立準備金	150,000円
・新型コロナウイルス感染症の影響による卒園児への支援	200,000円
・児童の習い事費用として	157,563円

アイリス

ホーム目標は「健康で文化的な最高品質の生活」です。新型コロナウイルスの感染が心配される状況においても、工夫しながらめいっばい生活を楽しみたいという気持ちを含めて、最長のH君が提案してくれました。洒落っ気のある目標でみんなが気に入っています。

今年度も学園で唯一の四人定員のホームになります。気づけば一番年下の子もこの四月に中学校に入學し、中高生だけで構成されるホームになりました。高齢児のホームだからこそ、たくさん話し、共に楽しみ、なりたい自分に一歩近づける一年にしていきたいです。

児童指導員 足立理美



ホーム紹介



すみれ

「平和なホームで楽しく過ごす」これが、今年度のすみれホームの目標です。この目標は、今年度一年間どのようなホームにしたいか、と子どもたちに聞いた際、立候補してリーダーとなった中学生の児童が話してくれた内容です。喧嘩を含めたトラブルは絶えませんが、少しでも明るく楽しく暮らしたい、安心安全な日常が欲しい、という思いがとても伝わってきました。私たちホーム担当は子どもたちと一緒に、平和でそして楽しく過ごせるホームにして行きたいと思っています。

児童指導員 菅大輔



ひまわり

ひまわりホームは幼児から高校生までの六名が一緒に暮らしている女子ホームです。今年度のホーム目標は、暴力暴言セクハラに決定しましたが、実はこの目標は四年連続となっています。前年度も一人ひとりがこの目標を意識した生活をしてきました。より過ごしやすいういホームを目指すためにも満場一致で選ばれています。喜怒哀楽が賑やかに交じり合うホームでありますが、自分のことだけでなく相手のことも思いやる気持ちの達成に近づければと思っています。

児童指導員 吉田 雛乃



アスター

アスターホームの今年度のホーム目標は「メリハリのあるホーム」「きれいなアスターにしよう」「みんな仲良く楽しいホーム」に決めました。新型コロナウイルスで、ホームにいる時間がとても長かったため皆で協力してちぎり絵でホーム目標を作りました。今年度のアスターはどのホームよりも年齢が低い構成になっており、ケンカも多いですがそれ以上に皆で一緒に楽しむことが出来ています。このちぎり絵のように子どもたち一人ひとりの力を結集させ、子どもたちが作り上げていけるホームにしていきたいと思っています。

児童指導員 草野 彩佳



コスモス

コスモスホームは、今年度女の子三人でスタートをきりました。現在は小学校高学年から高校生が生活しています。ホーム目標は、「挨拶・時間・節約を大切に作るホーム」、「コミュニケーションが豊かなホーム」です。日常の中の何気ない感謝の言葉や当たり前のように賑やかな食卓、困った時には相談が出来るなど、その時々コミュニケーションを大切にしています。また、今年も玄関先で野菜を育てており、野菜の他にも秋頃にはコスモスが咲いて、子ども達のようにホームを明るく、華やかにしてくれます。

保育士 藤川 桃々



けやき

朝、けやきホームに近づくと子どもたちの声が聞こえてきます。「楽しそうだな」とワクワクしたり、「ケンカしてるな」とドキドキしたり、子どもたちの顔を見る前にホームの状況がわかるほどとにかく賑やかです。また、みんな喋ることが好きというところもあり食事中は特に盛り上がりがあります。そんななか今年のホーム目標は「人の話を聞くこと」です。話すだけではなく人の話を聞くことも大切にしようと思ひなで決めました。話すことが好きなホーム。あとは人の話を聞くことを心掛け、けやきホームがより活発になればと思っています。

児童指導員 河内建太



さくら

地域の皆さんのご協力、ご支援をいただき、さくらホームの二年目がスタートしました。幼児から高校生まで幅広い年齢で、日々笑いあり涙ありの生活を送っています。庭先でみんなが遊んだり、とにかく和気あいあいと元気に過ごしています。庭の家庭菜園も多くの野菜が実りました。特にイチゴが赤く色づき大きく成ること、収穫を大人、子ども共々楽しみにしています。

コロナウイルスの影響で先行きが不安な情勢ではありますが、コロナウイルスに負けないようみんなが楽しく元気に過ごしていきたいと思っています。

児童指導員 日下部剛史



菜の花

上は高校生から下は幼児まで、男女縦割りの菜の花ホームの今年度のホーム目標は、一つは「言葉遣いを綺麗にする」です。「人に思いやりを持つ」「優しくする」と言うアイディアが出てきて、言葉遣いをきれいにすれば自然とそうなるのではないかと話し合っていました。もう一つは「ばなしをなくす」です。つい、置きっぱなしにしてしまったり、出しっぱなしにしてしまったりをなくし、きれいな空間で一年間過ごしたいという思いが込められています。いつも本当に元気な子供たち。二つの目標を達成できればもう怖いものなしです。

児童指導員 渡邊洋暉



あじさい

あじさいホームは中高生男子六名で生活を送っています。今年度のホームの目標は「明るいホームにしよう、協力し合えるホームにしよう」と決めました。最近の子どもたちのホームはカードゲームのようで、ホームの目標にあるように明るくみんながカードをしていて声がいっぱいビンクに響いています。

やるべきことはしっかりとやりつつ、楽しむときはみんなで思いきり楽しむメリハリのあつたホームを、そしてお互いが少しでも快適に生活を送ることができるようやりとりを大切にしていこう、そんなホームを子どもたちとともに作っていききたいと思っています。

児童指導員 橋本亜季

屋久杉

今年度の屋久杉ホームは高校生の男子六人で生活しています。皆が食べ盛りのため、例えばハンバーグを作ると、三キロの挽肉を使ってもペロリと平らげてしまいます。

令和二年になり、屋久杉文庫を新設しました！子どもたちのリクエストや職員のおすめから本を選び、皆で共有できるように、リビングに本棚を置いています。屋久杉ホームは子どもの年齢が高いため、学校やアルバイトなど皆が違う時間で生活を送っています。ゲーム以外にも共通の話題ができることで、子ども同士の交流が増えるといいなと思っています。

児童指導員 平原珠優



行事報告

クリスマス会

十二月二十一日に府中ルミエールの会場をお借りしてクリスマス会を行いました。普段は調布・府中に十ホームに分かれて生活している子どもや職員、日頃お世話になっている方々が一堂に会し、楽しいひと時を過ごしました。一部は子どもと職員での礼拝、二部はお世話になっている方々を招待し、ささやかではありますがパーティーを行いました。ホーム対抗のゲームで盛り上がり、一緒に食事をしながら日々の感謝を伝えたりとあつという間の時間でした。

日頃からたくさんの方にお世話になっていることを改めて実感した会になりました。

児童指導員 日野 亮子



卒園生を送る会

今年の卒園生を送る会では三名の卒園生を送り出しました。三名の卒園生をみんなで送り出そうと準備してきましたが、感染症の影響もあり縮小での開催となりました。例年のように在園している子どもたちと一緒に送り出すことはできませんでした。

したが、出来る限りの職員が集まり卒園生と共に学園での思い出を振り返りながら一人一人の想いが詰まった会を行う事が出来ました。

児童指導員 宮本 美希

強歩

強歩とは学園から信濃町にある法人本部までの往復四十kmを歩く伝統行事です。往路は羽が生えたかのようない軽い足取りでしたが復路では羽も踵に変わっていきます。しかし本園に近づく「頑張ろう」と声を掛け合い、ゴールに向けて心が一つになっていきました。ゴール後の達成感と疲労感のある表情は今でも心に残っています。

児童指導員 河内 建太



卒園生の会

卒園生の会は例年一月に二葉学園を卒退園した人たちと職員が旧交をあたためる機会です。近況を把握し、来れなかった人たちの情報を得る機会でもあり、二〇歳の卒退園生の成人を祝う場でもあり、みんなの励まし合いの場としても、つながりが途絶えないよう本園のホールでご飯等を食べながら集まりを継続して開催しています。今年度は卒園生が親になり、その子どもも多く参加してくれました。

自立支援コーディネーター

小林 治

スキー

二月二十二日から二十三日、丸沼高原に初めて小学生グループでスキーに行ってきました。イメージトレーニングは十分だったのですが、思うように動くのはなかなか難しい。それでも颯爽と滑る自分の姿をイメージし続け、めげずに一日目を終えました。二日目は吹雪いてしまいい滑ることはできませんでしたが、全員来年も参加希望！とのことでした。

児童指導員 遠藤 敦子

スキー・スノーボード

暖冬の昨シーズン、「果たして雪はあるのか？」とドキドキ。初日は天気恵まれ、思っている以上の積雪に自然と足(板)が前へ前へと進みました。「明日ももつと滑りたい！」と話していた翌日：なんと吹雪いているではありませんか。子どもたちのリアクションも様々で、心折れてしまう子もいれば、俄然やる気になっている子もいました。

保育士 玉井 里奈



雪あそび

今年一月に小中学生五名と、昨年度も利用させて頂いた埼玉のスケートリンクへ！

各自滑れる度合いは違いますが、お互い滑りを褒め合い励まし合い、一体感を持って活動を楽しめました。全員で一日の頑張りや成長を喜びあえた事が、達成感や自信にも繋がったようで、帰り道から次年度も参加したいという声が上がっていました。

保育士 犬石 美里



スケート

今年は暖冬の影響で、当日の雪の状況がどうなっているのか不安でいっぱいでした。しかしそんな不安はグレンデを一目見てすぐになくなりました！はじめての雪遊びの子どもが多く、一面の雪景色に大興奮！ソリですべったり、みんなで雪だるまを作ったり・・・充実した雪遊びになりました。帰りの車内ではぐっすり眠っていました。

保育士 廣瀬 彩香



 新任職員紹介

初めまして、金澤ちよ乃です。今年度よりけやきホームの担当をさせていただいております。

韓国の文化に興味があり、特にK-POPと韓国料理が好きです。韓国語も学んでいます。休日は旅行したり、美味しいものを食べに行ったり、たまに家から一步も出ない日を作ってひたすら寝たりして過ごしています。五人兄弟の長女で歳の離れた弟妹がいるので、家族で遊びに行くこともあります。

今まで実習やアルバイト等で児童養護施設に関わる機会はなく、日々、子どもたちとの関わりや生活の場に入って支援することの難しさを感じています。

何事も一つ一つ丁寧に取り組むことを心掛け、二葉学園でのすべての出会いを大切にしたいです。また、子どもたちにとっての最善を常に考えて行動していきます。何卒よろしくお願い致します。

保育士 金澤 ちよ乃

この春からさくらホームの担当になりました、木村若菜と申します。

生まれも育ちも東京ですが、大自然の中にいることが好きです。電車も好きで、鈍行で北海道に旅したり、田舎で寝台列車や汽車に乗ったのもいい思い出です。

学生の頃に、実習で二葉学園に出会いました。あれから二年経った今、一職員として繋がれていることを喜ばしく思っております。入職して間もないですが、生活の中に表れる子どもたちの姿はとても素直なものだと感じているところです。そのような子どもたちの姿を、柔らかな頭と心で気づくことのできる大人でありたいです。

まだまだ未熟ではありますが、今年は自身の健康とホームでの生活を守れるよう努めます。二葉の職員として、あたたかく見守って下さると嬉しいです。

保育士 木村 若菜

あじさいホーム担当職員となりました迫田大樹です。スポーツはバレーやバドミントン、スノーボードが好きで、ピアノを弾いたりカラオケに行ったりすることも好きです。児童養護施設で働いた経験はありますが、グループホームや高齢児対応等に関しては経験が浅いので、これから色々と学んでいきたいと考えています。焦らず子どもとの関係を築きつつ、子どもひとりひとりの希望や特性に応じた支援ができるよう取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いします。

児童指導員 迫田 大樹

初めまして。今年度よりアスターホームの担当となりました鈴木健也と申します。

二葉に入職する前は埼玉県にある乳児院に五年間勤めていました。乳児院と児童養護施設は似通った点が沢山ありますが、実際にアスターで仕事を始めて子どもと関わり、日々新しい発見の毎日です。

好きなことはサウナやバスケットボール、映画鑑賞。ドライブや登山も好きで休日は自由に過ごしています。

二葉に居る子どもの為に、自分に出来る精一杯の事をしたいと思っております。これからよろしくお願いします。

保育士 鈴木 健也

初めまして。四月からひまわりホームを担当させて頂いております、尾曾佳乃と申します。二葉学園では、ボランティアや代泊アルバイトですみれホームに関わらせて頂いておりました。好きなことは音楽を聴くことや漫画を読むことです。

子どもたちと共に育ちあいながら、一人ひとりを尊重した関わりをしていきたいと考えております。まだまだ至らない点も多く、試行錯誤する日々ですが、二葉学園での出会いを大切に、日々の気づき・学びを深めながら支援を行っていききたいと思っております。何卒よろしくお願い致します。

児童指導員 尾曾 佳乃



二葉学園では、養護の目的を達成するためにご援助を頂いて、より子どもたちの成長をはかるための賛助会を構成して、養護の状況をご報告しながら仕事を進めております。

皆様のご協力とご紹介をお願いいたします。

年会費 一口 1000円

お申し込み先

東京都調布市上石原2-17-7

児童養護施設 二葉学園

TEL 042-482-2578

FAX 042-480-5200

郵便振替 00130-4-47665

毎年報告しています決
済報告に関しましては、
社会福祉法人 二葉
保育園のホームページ
をご覧ください。

<http://www.futaba-yuka.or.jp/>

賛助会員・御支援者 御芳名 (敬称略)

秋葉義孝 秋葉宏子 厚朴修 辻久恵 秋輪和幸 石森康雄 坂倉綾子 野地隆夫 新井美津子 岡本文子
ばていすりー・ど・あん 仙川教会子どもの教会 日本鏡餅組合 子ども地球基金 (財)登戸学寮寮生一同
志賀勝子 網代正孝 斉藤友子 多胡彬 大橋章人 大橋能里子 桐谷重毅 橋本知 福島穆 岡安泰英 岡安珠子
高山直人 安納里恵 ちようふ子どもネット青少年ステーション 加幸男 大河原幸子 関沼幸通 (有)柴田商店 柴田明
ヤング理髪店 永幡紀明 上石原二丁目自治会さくら会 小田輝子 松岡浩 松岡和子 徳井美千代 宮田康成
調布駅前パソコン教室 多田京子 東京都蒔蒔共同組合 東映(株)テレビ 東中野教会 牧操子
高橋清一 小松幾世 有賀芳子 大新電気工業(株) 武藤修明 原田利裕 堀本縣治 メガガイア調布 田辺一男
加藤実三 中山正雄 藤澤晴子 (株)ドリームホーム 増岡源吾 B・Rサーティーワンアイス(株) 牧野信也 成田和子
千賀ひろみ 舟久保由紀子 食肉生活衛生同業組合 坂本悠紀子 公益財団法人毎日新聞東京社会事業団 阿部陽子
折茂伸満 フードバンク調布 大河内義貴 渡邊幸一郎 萩生田敏二 (有)ダスカジャパンクアウテモック 齋藤隆夫
染地地域福祉センター (株)神戸屋レストラン 作左部麻希 上野まり子 西光庵 清永道也 清永春美
府中市主任児童委員会一同 (株)ブレナス (有)東京馬主協会 (有)布田屋 掛川亜季 調布市社会福祉協議会 園武友
公益財団法人資生堂社会福祉事業財団 鈴木洋 藤田奈巳 那須史子 宮川千春 関根裕美 柳原園子 田中秋男
長澤康浩 徳富善子 泉水洋祐 特定非営利活動法人日本チャリティ活動支援協会 ゴールドマン・サックス証券(株)
(株)NUK建設設計事務所 一般社団法人東京文具工業連盟 調布市遊技場組合 大島紀子 吉澤貞雄 吉澤治代
アンダーツリー東京キコナー府中店 フィリップモリスジャパン(株) セカンドハーベスト・ジャパン 池田守彦
中嶋勝夫 松浦幸子 NPO法人ちようふこどもネット 宇山みえ子 コストコホールセールジャパン多摩境倉庫店
(株)京王閣 東京調布ライオンズクラブ 渡辺チイ 清水裕子 株式会社ガイア 足立書子 武田康男
角瀬敬子 島田圭子 小林明信 調布WAT 渡辺喜信 渡辺千重子 滝沢友紀 村岡弘 村岡えり子 村岡海斗
府中子ども家庭支援センターたち 一般社団法人東京都信用組合協会 調布・狛江地区更生保護女性会
やきとり大吉糸川 (株)オリエントコーポレーション ワールドメイト 小林肇 関口隆雄 百合合女子大学
公益財団法人毎日新聞東京社会事業団 中央共同募金会・アサヒ飲料(株) 日本再生(株)代表取締役鷺見健司 西村文子
健全育成第三地区委員会有志一同 小倉勇 (株)日本M&Aセンター代表取締役社長三宅卓 柳俊一郎
寺澤玲子 廣瀬剛 河内進一郎 榎本春久 フードフォーキッズプロジェクト 全国シャンメリー協同組合 森本裕美
塩野梨沙 株式会社日本出版社販売 松浦幸子 富士天然氷蔵元・不二 高田健吾 佐藤昭 調布市フードドライブ
大塚商会(株) アメリカンスクールインジャパン NPO法人プラネットカナル (株)サントリーホールディングス
大島秀治 ボランティアグループ・すいとびい 奥野宣子 中村敏枝 向當稔 向當君枝 KKアードブレイン
高橋一弘 菊池邦夫 西村文子 狛江市狛江友Vビーチボールクラブ 青松佐枝 一般財団法人日本児童養護施設財団
ドミノピザ調布小島町店 ジェイ・ワーク(株) 調布パルコフードドライブ 鈴木博人 荒井富子 高木久美 大木尚美
匿名の方

※皆様からのご支援・ご援助、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和二年八月